



情報解禁日:2021年11月9日(火)

報道関係者各位
(共同リリース)

2021年11月吉日

国立大学法人小樽商科大学

北海道余市町

上川大雪酒造地方創生コンサルティング

北海道余市町×国立大学法人小樽商科大学 ×上川大雪酒造地方創生コンサルティング、 包括連携協定を締結。

—ブドウの搾りかすなどを用いたブランデー蒸留事業を余市町内で実施予定—

北海道余市町と国立大学法人小樽商科大学(所在地:北海道小樽市、学長:穴沢 眞、以下「小樽商科大学」と上川大雪酒造グループである上川大雪酒造地方創生コンサルティング株式会社(本社:北海道小樽市、代表取締役:川端 慎治、以下「上川大雪酒造地方創生コンサル」)は、地域課題の解決に向けた多様な連携を通じて、資源や特色を活かした交流、活用の取り組みを図ることで、産官学連携による地域の活性化を促進させ、地域産業の発展及び人材の育成に寄与することを目的とした包括連携協定を2021年11月9日(火)に締結いたします。

大変恐れ入りますが、締結日11月9日(火)までは公開をお控え下さい。

北海道余市町×国立大学法人小樽商科大学×上川大雪酒造地方創生コンサルティング

包括連携協定締結の背景・概要

余市町では、人口減少や産業の担い手不足を解決するため、国内外でも注目を集めている優れたワイン及びその原料となるブドウの生産地として、「地域資源の高付加価値化」に取り組んでいます。ただ、ワインの製造過程で生まれるブドウの搾りかすは、産業廃棄物としてワイナリーの負担が大きく、また残渣の利活用の手法について大きな課題を抱えていました。

この点について、日本酒や焼酎などの酒類製造を行う上川大雪酒造グループで“地方創生”を目指しコンサルティング事業を展開する上川大雪酒造地方創生コンサルティングと連携することで、余市町の抱える課題解決を推進できると考えました。具体的には、上川大雪酒造グループがこれまで培ってきた日本酒や焼酎などの酒類製造の知識や技術、人脈を活かし、ブドウの搾りかすや町内産の果樹を用いたブランデー蒸留事業を余市町内で実施します。

また、小樽商科大学では隣接する余市町の豊富な食資源等に着目し観光振興、マーケティングの観点から、これまで様々な調査研究を進めてきました。

この度、上川大雪酒造地方創生コンサルティングが余市町内で実施するブランデー蒸留事業をきっかけに、事業の構想段階から学生の研究課題として余市町を調査のフィールドとし、産官学の連携による地域産業の振興、人材育成の実現、地域ブランドの確立を目指し、本協定に基づき三者にとって有益かつ継続性のある取り組みを推進します。



■北海道余市町

商号：北海道余市町

代表者：町長 齊藤 啓輔

役場所在地：〒046-8546 北海道余市郡余市町朝日町 26 番地。

余市町は、北海道の西部、積丹半島の東の付け根に位置する、人口約 18,000 人の町です。町の北側は日本海に面し、他の三方はゆるやかな丘陵地に囲まれています。古くはニシン漁により発展し町の基礎を築いてきましたが、現在は、ニシンに代わって、「えび」、「うに」、「かれい」漁などがさかんに行われ、また最近では新たな特産品としてムール貝、牡蠣の養殖もスタートしています。

一方、北海道の中でも指折りの温暖な気候で知られており、果樹の栽培が明治初期から試みられた結果、リンゴ、ブドウ、梨、桃などの生産では全道一を誇っています。

平成23年には北海道初となる「北のフルーツ王国よいちワイン特区」に認定され、ワイン用ぶどうの生産者のほかワイン醸造への新規参加者が増加し、現在 50 軒を超えるブドウ栽培農家と、15のワイナリーが存在する全国でも注目される一大ワイン産地となっています。

■国立大学法人小樽商科大学

商号：国立大学法人小樽商科大学

代表者：学長：穴沢 眞

所在地：〒047-8501 北海道小樽市緑3丁目5番21号

開校：1911年5月

小樽商科大学は、昭和24年5月国立学校設置法(法律第150号)により、新制大学として発足し、平成16年4月国立大学法人小樽商科大学に移行し、今日に至っている。その起源は、遠く明治44年5月全国の官立高等商業学校のうち第5番目として開校された小樽高等商業学校の設立にはじまる。以来、今日に至るまでに、本学の歴史は実に110年の永きにわたっており、産業の興隆並びに学術・文化の発展に貢献してきました。

■上川大雪酒造地方創生コンサルティング株式会社

代表取締役 川端 慎治(上川大雪酒造株式会社 代表取締役副社長)

所在地：〒047-8501 北海道小樽市緑3-5-21 小樽商科大学内

設立：2021年8月

上川大雪酒造地方創生コンサルティング株式会社は、上川大雪酒造(※)の親会社である緑丘工房(株)の100%子会社として設立いたしました。

緑丘工房(株)は、地域の発展と人材育成を目指し、2021年4月に小樽商科大学と包括連携協定を締結しています。2022年4月に帯広畜産大学・北見工業大学との経営統合により、大学間の単位交換も視野に北海道の6次産業化に資する教育を可能にすることに取り組む小樽商科大学の構内に、マーケティングや地域振興に精通した3大学の知見・研究を活用し、地域の課題を解決し地域活性化を実現することを目的として当社を設立いたしました。



(※)2016年、三重県で休業中だった酒造会社を北海道上川町に移転という前例のない手法で誕生した上川大雪酒造。酒造の無かった土地に酒造をつくり、その土地にこだわった素材で、“小仕込み・高品質”の酒造りを行い、日本酒を活用した地域活性化と人材育成を図り、「6次産業化地方創生ビジネス」のイノベーションを目指しています。現在、上川町「緑丘蔵(りょつきゅうぐら)」と2020年5月に創設した十勝の国立帯広畜産大学構内の「碧雲蔵(へきうんぐら)」で醸造を行い、第3番目の蔵として函館市内に「五稜乃蔵(ごりょうのくら)」がまもなく完成する予定です。2021年12月より酒造りを開始する予定で、現在、酒類製造免許を申請中です。